

宣言(案)

日本労働組合會議が、健全なる労働組合主義の大旗を昂揚し我國組織労働者を統一して以來一ケ年、茲に第二回大會を迎へた。この一ケ年は、労働運動の長き歴史よりすれば一瞬時に過ぎざるも幾多重大問題は随を接して生起し、我國労働運動が一大試練期に突入したる年であつた。

顧みるに、滿洲問題は遂に日本をして國際聯盟より脱退を餘儀ならしめ、爲に聯盟の平和機構は著しく動搖するに至り、加ふるに世界經濟會議は慘澹たる失敗を遂げ、今や各國は擧げてプロック經濟化の道を突進しつつある。

されば我國の輸出貿易も深刻なる苦難に當面せざるを得ないこととなつた。これ各國がその資本主義の行詰りを、「國家主義」に依つて打開せんとする當然の歸結であるが、同時に我國資本家階級が労働者に對し不當劣悪なる労働條件を強制し、或は生産及輸出の統制を缺き、所謂「餓死輸出」を行ひ、徒らに差別關稅の口實を興へつゝあることも掩ひ難き事實であると言はねばならぬ。

由來我國資本家が労働者を搾取し、その分配の甚だしく不公正なることは一見して極めて明かである。即ち對外爲替の下落と相俟つて、**労働者階級の生活水準が暴落した**。然るに労働賃銀は之に伴はざるのみならず、産業の或る部門に於ては却つて下落したるものすらある。況んやインフレ國外の産業に於ては、失業者は依然として吸收されず、労働生活の悪化は停止するところを知らざるものがある。これ、労働階級の健康と生活を荒廢せしめるものであると共に、民衆購買力を減退せしめ、健全なる國民經濟を破壊するものである。

斯くの如く非常時の聲徒らに高くして、産業に正義公正の行はれざるは、労働階級の總數に對し、強固なる組織と鐵の如き訓練を有する團體に屬する労働者の數が餘りにも鮮少なる事が其一因たる事を我等は卒直に自認するものであるが、それと同時に政府及資本家を含む支配階級及金權階級のこの非常時世相に對する認識不足と誠意缺陥に因る事甚大なりと斷定せざるを得ない。即ち我等は或は非常時に名を藉り、或は國家主義を標榜し、其實労働時間の延長、労働量の加重、請負制度の擴大、労働賃銀の低下等を労働者に強要せんとしつゝあるのである。

日本労働組合會議は、健全なる組合主義の旗の下に、労働組合戦線を統一して、其巨歩を踏み出したのであるが、當時之を妨害せる左右の兩極派は、今日既に没落、轉向、廢類、少くとも労働組合運動に關する限り、殆んど解散し去つた。然して我組合會議は、新に加盟組合を得て一勢力を加へ、又産業別整理の端緒とも見るべき或は地方協議會制度の原則を建て、着々として進展しつつあるのである。

然し乍ら、四百萬の未組織労働者を組織し、資本の搾取を克服して産業に正義を樹立し、或は國際労働機關及亞細亞労働組合會議を通じて正しき世界平和に貢獻する爲には、尙幾多の苦難が前途に横はるを見る。我組合會議はこの試練に堪へ、苦難を乗り越へ、「**健全なる労働組合主義**」の完成に邁進しなければならぬ。